

広土会新聞

第23号

2019.3.1 発刊

発行所 広島工業大学 広土会
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
TEL 082-921-3121

広土会の50周年と活性化



広土会会長

福原 輝幸

広土会50周年記念事業が平成30年9月8日、リーガロイヤルホテル広島にて行われた。初めに記念講演会では講師に石井めぐみ氏（女優・国立市議会議員）をお招きし、「やさしいまち、やさしい人」についてお話を頂いた。これには約140名の参加があった。講演は病氣と闘う子供に対する母親の慈愛を語る部分が多く、土木に従事する男性にはとても印象深く、目にハンカチを当てていた人もいた。その後の祝賀懇親会には約350名の同窓生が集まり、昔に戻り楽しい時間を共有した。来賓として理事長・総長、鶴 衛様、広島工業大学同窓会会長、荒谷 壽一様、他に鶴学園理事の方々、広島工業大学工学部長、その他の出席を頂いた。元土木工学科の鈴木健夫先生、島重章先生、伊藤秀敏先生、吉國洋先生、米倉亜州夫先生、熊本直樹先生はお元気で、卒業生と楽しく談笑されていた。さらに五三会、建築会、経情会の会長や代表幹事の方々にも出席を賜り、盛大に50周年を祝うことができた。これは偏に7月の豪雨災害関連で公私に厳しい状況であったにも拘わらず、50周年記念事業を企画、運営して頂いた実行委員会の方々（橋国委員長、河崎・佐藤副委員長ほか、総務部会、講演会部会、祝賀会部会、会計、支部幹事、各期幹事等）のおかげである。改めてこの紙面を借り、実行委員会の方々に感謝を申し上げる。ただ、7月の豪雨災害の影響で欠席された方がおられたことは残念の極みであった。

50周年に関連して「50年」は土木分野ではよく耳にする数字である¹⁾。例えば種々の土木構造物の寿命や耐用年数がそうである（最近では寿命が延びている²⁾）。多くの橋や下水管などが更新されており、土木構造物の維持管理が今後の主要な仕事になるのは周知のとおりである。言葉は適切でないが、50年を迎えた広土会も更新の時期に来ていると思う。広土会の誕生・成長は、言わば卒業生の誕生・成長の証である。誕生から50年間、昭和・平成の広土会を牽引された初期卒業年次の方々は既に退職されたか、あるいは退職の時期に来ている。この意味で、50周年記念事業は広土会を進化させる節目ともなった。新しい年号となる今年、新たな広土会の胎動が始まる。その原動力となる人材に心配はない。50周年事業参加者の内訳をみると、1、2期生が多く、30期生までが全体の90%以上を占めた（平均で各期10人前後）。脂の乗った世代の卒業生が多く参集したことは頼もしい限りである。一方、30期以降の卒業生は各期ゼロから数人であり、30期を境に大きな段差が見られた。年を増すと同期生や親しく付き合ってきた友人に会いたくなる。私自身、仕事や私事で同窓生には大変お世話になった。同窓生とのアンテナを張っておくこと

の大切さを知る機会は、卒業後の年数に比例するかもしれない。だから若い世代の卒業生には色々な情報を得る場として、広土会を活用して欲しい。

最後にホットなニュースを紹介する。広土会では卒業生と学生との距離感を大切にしようと、今年初めて「広土会キャリア交流会2019」を開催することになった。この目的は卒業生、在学生及び教室教職員の親睦、情報交換などを図る事にある。具体的には広土会が環境土木工学科と連携して、同学科の学生を対象に情報交換や意見交換を行う。参加は広土会活動に協力している企業および、広土会会員が所属する広島県およびその隣接県内の建設関係企業である。この交流会が学生にとって広土会を理解する（先輩後輩の絆を深める）ための機会となるように、広土会会員、皆様の御協力をお願いしたい。

参考文献

- 1) 松浦 弘・真下英人：道路構造物の長寿命化について、14-17、土木技術資料 57- 1、2015
- 2) 玉越隆史・中洲啓太・石尾真理・武田達也：道路橋の寿命推計に関する調査研究、国土技術政策総合研究所資料、第223号、2004



人と地球にあたたかな技術、
ハートテクノロジー。

海の豊饶、大地の豊饶、そして都市の発展。
地球の自然と快適な生活の源は、私たちが創ります。
人と地球にあたたかな技術、夢をかなえるカタチに。
感動の明日を創っています。

東洋建設

洋ようと 伸びのびと 夢をかたちに

 **洋伸建設株式会社**

代表取締役 金山 健二

本 社 〒730-0012 広島市中区上八丁堀4-1 TEL(082)511-4520
ア・バンビュ・グランドタワー7F FAX(082)511-4521
営業所 福山・呉・廿日市・山口・四国・九州
事業所 黒瀬
ホームページ <http://www.yoshin-const.co.jp/>

総合建設業

 **占部建設工業株式会社**

代表取締役 占部 誠

本 社 〒720-0816 福山市地吹町18番16号
TEL(084)922-1254 FAX(084)922-1276
広島支店 〒738-0004 廿日市市桜尾二丁目8番3号
TEL(0829)32-1224 FAX(0829)32-8779
井原営業所 〒715-0022 井原市下出部町二丁目22番4号
TEL(0866)67-1300 FAX(0866)67-1215
広島営業所 〒731-5135 広島市佐伯区海老園4-4-44
TEL(082)921-2617 FAX(082)921-5443

広土会 50 周年記念



挨拶

実行委員長

橋國 雅文（13 期生）

広土会創立 50 周年おめでとうございます。
私は、50 周年記念事業の実行委員長を務めさせて頂きました 13 期の橋國でございます。

皆様方におかれましては、大変ご多忙の中、記念事業祝賀懇親会には、鶴学園の理事長 総長である鶴 衛様をはじめとする大学関係の方々、衆議院議員であられる平口洋様、並びに土木系学科の恩師の方々など、多くのご来賓の皆様にご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、広土会会員の皆様には 350 名余りの皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。

開催 2 か月前の 7 月に西日本豪雨災害が発生し、先ずは、この豪雨によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

会員の皆様の中には、この豪雨災害により、被害に会われた方だけでなく、復旧・復興作業に従事しておられる関係者も多く、記念事業の開催に大きく影響するものと思っておりましたが、このように多くの方々にご参加いただき、記念祝賀懇親会を盛大に開催できましたこと、これもひとえに皆様方のおかげと、改めて深く感謝しております。

広土会は、広島工業大学土木工学科、現在は、都市デザイン工学科、環境土木工学科と変遷はありますが、この土木系学科の卒業生、在学生並びに先生方を構成員として、会員相互の親睦を図り、建設技術の発展に寄与することを目的に、昭和 43 年 10 月に結成され、現在、広土会本部をはじめ全国各地に 11 支部を擁し、会員数も約 4,800 名となる大きな組織に発展しています。

会員の皆様は、地元広島はもとより全国各地において官公庁や建設業界、コンサルタント業界をはじめ、数多くの分野で指導的役割を果たすとともに、地域社会の発展に大きく寄与されているところで。

さて、昨今の社会経済情勢を見ますと、この度のような大規模な災害がいたるところで発生し、それらの復興事業をはじめ、高度成長期に建設されたインフラの改築更新事業、そして間近に迫った東京オリンピック関連事業などで、土木技術者の需要は非常に高まっており、われわれ土木技術者の果たす役割は、今後も重要なものがあると思っていますが、建設業界を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いています。

広土会としては、これまで築かれてきた輝かしい伝統を継承し、この変革の時代に対応した会に発展させるため、より一層の努力を重ねる必要があると思っています。

このような状況下で記念すべき創立 50 周年記念事業祝賀懇親会を開催させていただきましたが、全国各地でご活躍されている会員相互の親睦を深める良い機会になったのではないかと思います。

最後になりましたが、広土会創立 50 周年記念事業の開催にあたり、絶大なご協力、ご支援をいただきました関係者に対して、心から感謝申し上げますとともに、広土会と

その会員の皆様が、より一層、社会に向け飛躍し、続く 100 周年に向かって、明るい未来に希望を持って力強く歩んでいくことを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。



僕らのアイドル “石井めぐみ”さんに会えた日

記念講演会委員長

熊谷 孝司（13 期生）

今回の講演会開催にあたっては、広土会会長の福原輝幸先生の御尽力により、女優で国市議員の「石井めぐみ」氏に議会中のお忙しい中、快くこの講演を引き受けていただき、「やさしいまち、やさしい人」と題して、障がい者への理解を広める活動を行ってこられた内容を講演していただいた。（聴講者約 140 名）

「石井めぐみ」と言えば我々世代のアイドルであり、会える日を楽しみに待っていた。同期からも大ファンだったのでぜひ参加したいとの連絡があるなど反響は大きかった。

講演の中で、「世間に、障がいへの理解を持ってもらうためには、気持ちの壁を壊すことが必要」と考え、障がいを抱えた長男「優斗」君の成長を綴った「笑ってよ、ゆっぴい」を執筆し、その子育ての様子、格闘の日々を綴ったドキュメンタリー番組のテレビ放送を実現させようと奔走するが、障がい者の番組は視聴率が取れないと、どのテレビ局にも断れたそうだ。最後の望みで「オレたちひょうきん族」で共演した「明石家さんま」さんに相談すると、俺がナレーションを引き受けるのでフジテレビが OK してくれのでは……。そこからトントン拍子に話が進み、「愛の家族スペシャル・ゆっぴいのばんそうこう」として放送されたエピソードでは会場内も和やかな雰囲気になった。

テレビ放映後の街の反響は大きく、いつもの渋谷の街が「がらっと」変わっており、以前は目をそらして立ち去る人ばかりで、階段の昇降やドアの開閉に苦労していたが、近くに行けばすぐに声をかけて手伝ってくれるようになっていた。人は知らないことには目を背けるが、どうすれば良いか知るきっかけがあれば、簡単に障がい者と接することができるようにすると知ることができた。

「障がい児は懸命に生きて、親に喜びを与えてくれる。困っている人を見たら、立ち止まって、目を合わせれば、その人に何か手伝えることがあるはず。」一人ひとりが思いやりを持つことの大切さを心に刻み、「ひとの命の大切さ」を痛感した。

会員の皆様、幸せの意味や家族のあり方、障がい者と健常者が共に手を取り合って生きる街づくり、障がい者の方が安心して気軽に外出できるバリアフリーな街づくりについて、今一度考えてみてください。

最後に、講演の中で翌日（9/9）は「優斗」君の 19 歳の命日と聞かれ、大切な時期に講演を引き受けていただいた「石井めぐみ」氏に深謝する共に、「優斗」君の御冥福をお祈りし、報告としたい。



記念祝賀会に寄せて

記念祝賀会委員長

田中 譲治（11 期生）

広土会創立 50 周年おめでとうございます。諸先生方をはじめとし、広土会の運営に携わった会員の皆様に敬意と感謝申し上げます。

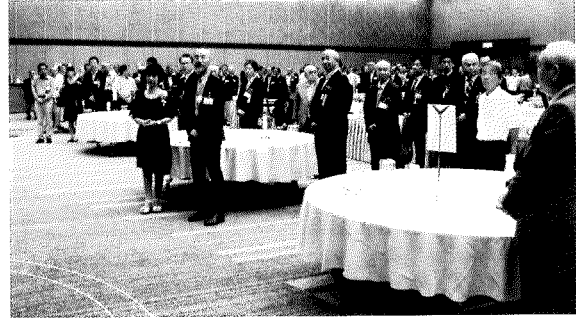
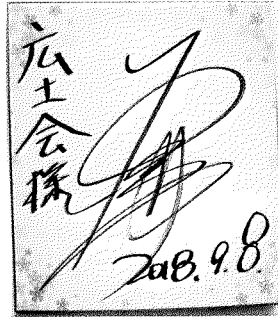
広土会新聞の発刊に当たりまして、記念事業の準備会議や祝賀会の様子などを紹介したいと思います。開催約一年前に第 1 回目の準備会議で、記念事業実行委員の皆様を選任し、記念事業の計画策定に向けスタートしました。準備会議は計 4 回、それに加え実行委員の幹部会議を 2 回行い、記念事業の開催へと漕ぎつきました。

準備を進めていく中で、7 月に未曾有の豪雨災害が発生したこと、会員の多くの方が、膨大な仕事量にて参加できないという情報が入ってきました。広土会会員の皆さんのほとんどが土木関係の仕事であり、広島で勤務する皆様は災害復旧に向けて不眠不休で仕事をされているのは想像出来る所であり、中止もしくは延期の必要があるのかとの意見もありましたが、こんな時こそ会員の繋がりを大事にしたいとの想いから予定どおり進める事になりました。しかし約 350 名と、予想より多い参加者があり実行委員一同安堵いたしました。

ここで、参加できなかった会員の皆様に祝賀会の様子をお知らせします。祝賀会は司会の船津裕子氏と毎回同窓会祝賀会の司会補助をして頂いている舩繁昌志氏（17 期生）とで進められました。最初に実行委員長の橋國雅文氏（13 期生）氏の開催の辞から始まり、来賓祝辞として鶴衛理事長、平口洋衆議院議員、荒谷壽一広工大同窓会会長の方々よりお言葉をいただいた後、広土会から鶴学園応援プロジェクト寄付金を鶴理事長へお渡しし、副実行委員長の河崎勝也氏（15 期生）の乾杯でいよいよ宴が始まりました。参加の皆さんは懐かしい昔話や近況の報告などで話題は尽きず、大いに盛り上がりとても楽しい時間であったようです。宴の中ほどで 6 名の土木系学科退官教授の方々を紹介しました。長いご挨拶が得意な鈴木健夫元教授が代表で挨拶されましたが、進行役の舩繁氏の機転にてほどほどでまとめて頂き、時間通りの進行ができました。宴の終盤には、竹内勝喜氏を始めとした 1 期生の皆様、また和田一雄氏（4 期生）の応援エールで広島工業大学歌の斉唱で、会場の雰囲気も最高潮となり感動の場面となりました。最後に、狭戸尾浩広島県議員（2 期生）による万歳三唱で締めくくり、祝賀会をとおこりなく終えることが出来ました。

記念事業で思いましたのは、30 期生以降の会員の参加者が少ないようです。公私共に忙しい年代なのでしょうが、同期の方との交流で仕事にも役立つことがきっとある事だと思いますし、同期生との会話は本当に楽しいものです。そんな絶好の機会を大切に頂き次回の参加をお願いしたいと思います。

最後に、記念祝賀会の企画運営の中心となって頂きました廣本幹事長と祝賀会部会委員の皆様へ感謝と御礼を申し上げますとともに、広土会の益々の発展と会員皆様のご活躍を祈念しまして祝賀会の報告とさせていただきます。



支部会だより



50周年記念事業に寄せて

関東支部長

檜垣 誠 (18期生)

「広土会創立 50 周年」、まことにおめでとうございます。紙面をお借り致しまして、創立 50 周年記念事業を準備から開催まで御苦労された幹事の皆様には、厚く御礼申し上げます。

ところで、広土会関東支部ですが、毎年 2 月または 3 月に支部総会を開催しており、昨年 2 月 24 日(日)アルカディア市ヶ谷において第 25 回広土会関東支部総会および懇親会が開催されました。総会には関東支部初代支部長梶野良夫様(2期)、二代目支部長西尾修一様(4期)、三代目支部長橋本千代司様(6期)をはじめ、約 20 名の広土会会員様と、十河名誉会員および本部から大東先生の参加を頂き盛大に行われました。

関東支部総会の記念すべき第 1 回目はというと、1978 年 4 月 9 日(昭和 53 年)に発起人である加藤孝二郎様(2期)、井本啓則様(期)両氏の御骨折りによって開催されたと聞いております。そういう意味では関東支部総会も本部の 50 周年には及ばないものの、40 周年の節目を迎えたこととなります。この節目に、関東支部総会の幹事も若返りを図るべく、初代支部長梶野良夫様、二代目支部長西尾修一様、三代目支部長橋本千代司様および十河名誉会員様のご推薦により、第 4 代支部長を拝命致しました。諸先輩方が多くおられる中で、本当に自分で良いのか自問自答致しましたが、業務の関係で広島および山口に行く機会があり、母校である広島工業大学にも年に 2~3 回程度伺い、今現在も環境土木工学科の竹田先生や村中先生にお会いすることもあるので、本部との懸け橋的な存在となればという思いで引き受けさせて頂きました。

広土会 50 年記念事業に先立ち、支部長会議に初めて参加させて頂きましたが、各支部長様は大先輩ばかりで、緊張の面持ちで皆様のご挨拶を聞いておりましたが、各支部様も幹事の高齢化が進んでおり、また、支部の新しい会員情報が集まり辛いこともあり、支部総会の開催もままならぬ状況であることをお聞き致しました。一方、関東支部では今までに 25 回の支部総会が開催されており、諸先輩の力と情熱に改めて身の引き締まる思いとともに、引き続き関東支部総会を盛り上げていくことが会への恩返しであると考えおります。

最後になりましたが、広土会の益々の発展と、会員様におかれましては健康に留意され、益々のご活躍をお祈りしております。



50周年記念事業に寄せて

関西支部長

川岡 靖司 (14期生)

広土会創立 50 周年、誠におめでとうございます。記念式典の準備をして下さった実行委員の皆様お疲れさまでした、ありがとうございました。当日は、同期の友人やクラブの先輩と久しぶりに会うことができ、とても楽しく過ごしました。

20 年前の創立 30 周年では、私が卒業して 16 年目でしたが、在学中に教えを受けた先生方は皆さん現役で、学

生時代の延長といった感じがありました。さすがに 50 周年ともなると、先生方は代替わりされ、何より、懇親会で鶴理事長から説明された学科の変遷を聞いていると、その時々々の要請から学科の名称が変わるなど、50 年という時代の重さを感じさせられました。その中で、鈴木先生の昔ながらのお声を聞くことができ、とてもうれしく思いました。

式典では先輩方の元気な姿が目立ったものの、若手の参加者が少なく感じられたことに寂しさを感じました。同窓会離れが起きて久しいのですが、母校でも卒業時に広土会費を納める学生は 7 割程度と聞いています。それを打開する妙案を思いつかないのも申し訳ないところです。

さて、関西支部では夙川公園での花見と秋の総会を開催し、支部員相互の親睦を深めています。参加者が十数名と寂しいところはあるのですが、50 年近く続いている集まりであること、一旦途切れると再開するにはパワーが必要になるとの思いから、身の丈に合った形で続けることが大切だと考えています。とは言え、多人数での集まりに致したく、関西地区にお住まいの方は、ふるってご参加頂きたいと思っています。

関西支部の行事の連絡をさせていただきますので、下記アドレスに連絡くだされば幸いです。
kansaikodokai@kodokai1968.jp
(広土会の HP から入手できます)



50周年記念事業に寄せて

島根県副支部長

平野 昌明 (23期生)

広土会創立 50 周年おめでとうございます。

また、平成 30 年 9 月 8 日にリーガホテル広島にて盛大に開催されました記念事業、記念公演会と祝賀懇親会をお世話頂きました実行委員会の皆様方に紙面ではありますが敬意を表し厚くお礼を申し上げます。

当日はお世話になった教職員の皆様、同期生、先輩後輩の皆さんと再会をし、楽しい思い出話や近況報告に花が咲き非常に楽しく有意義な時間を過ごさせて頂きました。更には仕事上の共通する知人の話題で盛り上がり、私自身が 50 歳のこの年に改めて『ご縁』を頂戴する事が出来た感激の時間でした。

さて、我々の建設業界の昨今は一時期の仕分け、刷新の影響もあり若者の建設業界離れに拍車が掛かり恒常的な人手不足状態であります。母校でも土木技術者を志す学生が減少していると伺います。

特に我々地方(島根県)の建設会社は更に深刻で、元から少ない人材(材)の確保が困難な状況にあります。

その様な中、弊社でも情報化施工(ICT)への取組みを強め、業務の効率化に一定の評価を得始めております。今後建設業界全体で益々技術が進化し、既定の業務が大きく革新・変革し効率化をする反面、専門技術や知識の重要性が問われる時代にもなりつつあると言えます。

平成 30 年 11 月 19、20 日に母校環境土木工学科で ICT 講習をさせて頂きました。その中で述べさせて頂きましたが、効率化により不要な人材にならない様に学生時代にしっかりと基本を学ぶ事。社会に出てからは更に技術と知識の習得に励み、ICT を効果的に進化させ活用出来る技術者を育成する事が今後の課題と考えます。

また女性活躍の場としての発展、活用も大いに期待出来る所です。余談ですが私自身、島根県中学女子野球選抜チームを指導し大なる盛り上がりを実感しております。同様に建設業界でも、きっかけと挑戦の場、そして柔軟な環境の創造に ICT の活用が役を担うものと思いま

す。

広土会創立 50 周年の節目にこれから加率的に進化する情報化の波の中でこの『ご縁』を大切に母校とそこで学ぶ後輩(人財)を支援して次の 50 年が益々発展し更に次の世代に繋がるお手伝いが出来れば幸いです。

最後になりますが、広土会会員の皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。



50周年記念事業に寄せて

広島西支部長

河崎 勝也 (15期生)

広土会創立 50 周年、誠におめでとうございます。またこの度の 50 周年記念事業にあたりましては、広土会広島支部、広島西支部役員および創立 50 周年実行委員の皆様ならびに広土会会員皆様方がたのご支援ご協力に心より感謝いたします。

お陰をもちまして、祝賀懇談会は鶴衛鶴学園理事長・総長を始め恩師の先生方、平口衆議院議員、諸先輩がたならびに、広土会会員 300 人を超える多くの出席者のもと盛大に開催することができました。改めて広土会の素晴らしさを感じました。

祝賀懇親会に先立って行われた、石井めぐみさんの記念講演会では、心に響きなおかつとても心強いものであり、命の大切さ、支え合う大切さ、そして目標を持った無限の力など、多くのことが集約されたとても貴重なお話、本当にありがとうございました。

一見我々土木には関係ないよう思いがちですが、社会インフラ基盤の整備が、安心・安全に暮らす国民生活のした支えを成し遂げていること、そのために日々一生懸命努力している姿と同じであると感じたところであり、改めて土木が自身と誇りある仕事であると勝手ながら再認識したところです。

記念懇親会では久々の同期生や多くの先輩方と飲んで食べて語らい大変有意義な時間を過ごせ、色々な情報交換や新たな繋がりが出来るなど多くの方々との交流が図られました。

恩師の先生方のお元気な姿、未だに変わらない意味不明なお姿も見られ大変懐かしく楽しい時間を過ごさせて頂きました。

一方で、昨年は西日本において未曾有の豪雨災害が発生し、多くの尊い命が奪われ、多くの方々が被災されました。なくなられた方、被災された皆様にはお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、地域の一員として何か出来ないかと苛立ちながら、一刻も早い復旧、復興を願うばかりです。

災害に直面しいつも感じるのは、自然の力の壮大さと被災後のむなしさ、そして土木技術者として何が出来たか何をするべきかを考えさせられることです。

今、建設業界においても変わらず人手不足の状況です。災害対応を含め、地域社会の基盤整備を担う建設業を維持するため、どうやって乗り越えるか、知恵と工夫と創意による更なる技術力の向上も必要です。情報通信技術や AI(人工知能)技術の進歩への対応も今後必要不可欠となります。

今後も自然災害の発生は増え続ける一方です。これらの多くの課題に因應するためにも、広土会会員が今後とも親睦を図り、大学、建設業界およびコンサルタント業界をはじめとする建設技術者との情報交換・連携が図られ、対応出来たらと思ひつづけています。

厳しい建設業界の現状を乗り越え、社会に貢献する広土会会員の皆様の活躍が今後も継続され、社会・経済の発展に大きく寄与することを願い、そのためにも広土会相互の繋がりが強化され、益々発展することを願うばかりです。

明るく伸びる



株式会社 伏光組

代表取締役 伏見光暁

本社 〒734-0013 広島市南区出島 1 丁目 33 番 6 1 号

TEL (082) 253-6161 FAX (082) 254-4581

(支店)松江 (営業所)三次

道路埋設指針

建設大臣認定編纂

P C ボックスカルバート ザ・ウォール (H=5.0m)



株式会社 マシノ

本 社 〒733-0822 広島市西区庚午 1-19-23 (082) 507-2757 (代)
東広島営業所 〒739-2312 東広島市豊栄町別府 270 (082) 432-4132 (代)
福山支店 〒720-0805 福山市御門町 2-5-39 (084) 925-8855 (代)
山口支店 〒754-0002 山口県山口市小郡下郷 1130 (083) 973-3533 (代)
山陰支店 〒685-0003 島根県津和野市松川町下河戸 188 (0855) 55-0124 (代)
本 店 〒699-5133 島根県益田市神田町 615 (0856) 25-2380 (代)
工 場 広島・江津・益田



ヒューマン・コンシャス。
それがわたしたちの原点です。

MASUOKA
Architectural Contractors Inc.



株式会社 増岡組

広島本店 / 〒730-0045 広島市中区鶴見町 4 番 25 号 TEL 082-504-5050
呉本店 / 〒737-0051 呉市中央 1 丁目 6 番 28 号 TEL 0823-21-1441
http://www.masuoka-g.co.jp/



50周年記念事業に寄せて

広島県北支部長

國原 定明 (10 期生)

広島工業大学広土会創立 50 周年おめでとうござい
ます。また、平成 30 年 9 月 8 日にリーガロイヤルホテル広
島で記念講演会・祝賀懇親会が盛大に開催できたのも広土
会本部役員や実行委員会の皆様のお陰と心より感謝申し上
げます。

石井めぐみさんの貴重な経験談による記念講演会、そし
て一番楽しみだったのが祝賀懇親会でした。今回も学生時
代にお世話になった先生方や、4 年間ともに学びともに遊
んだ同期の仲間と、飲んで語れることができ、思い出話が
盛り上がり二次会へと続きました。

さて、広島県北支部も、平成 30 年 6 月 23 日に福原広
土会会長に出席していただき、支部会員 12 名の参加のも
と 29 回目の総会を三次グランドホテルで開催しました。
総会では、福原会長より、今の大学や学生の近況を報告し
て頂き、議題として前年度事業報告・会計報告をし、広土
会創立 50 周年記念事業への参加を呼びかけました。そし
て、広島県北支部も今年、30 周年を迎えます。その記念
事業について、協議し、隣の島根支部との交流会を呼びか
けることにしました。島根支部の皆様宜しくお願いします。
私も、初代支部長和田一雄先輩から広島県北支部長を引き
受け 10 年が過ぎようとしています。残念ながら、総会参
加者は、10 年前より少なくなっていますが、総会・役員
会以外に行事をするように計画しています。広土会本部の
皆様、そして各支部の皆様、今後ともご支援ご指導を宜し
くお願いいたします。

最後になりましたが、広土会の益々の発展と会員皆様の
より一層のご活躍をお祈りいたします。



株式会社 神 崎 組

代表取締役社長 神 崎 文 吾

本 社 姫路市北条口三丁目 22 番地
T E L 姫路 (079) 223-2021 (代表)
F A X 姫路 (079) 281-8191
支 店 大阪
事業所 敦賀・三木・岩国

心の映像カタチにします
建設クリエイター

総合建設業



株式会社 栗本

代表取締役社長 前川 拓也
〒733-0035
広島市西区南観音 7 丁目 14 番 20 号
TEL (082) 293-8500
FAX (082) 295-8231
【営業所】 岩国

<http://www.kurimoto-gr.co.jp>



山陽工業株式会社

SANYO CONSTRUCTION CO. LTD.

広島市中区十日市町 1 丁目 1-9 〒730-0805
TEL (082)-232-6471 FAX (082) 291-2233
<http://www.landingsanyo.co.jp/>

新 任 挨 拶



新任のご挨拶

環境土木工学科 教授

森脇 武夫

広土会の皆様におかれましては、ますますご活躍のこと
とお慶び申し上げます。

2018 年 4 月に熊本直樹先生の後任として着任いたし
ました。よろしく願いいたします。

1983 年に大学院修了後、広島大学工学部土木工学科の
助手として採用していただき、1993 年から助教授 (2001
年からは大学院准教授)、2003 年から呉工業高等専門学
校環境都市工学科の教授を務め、2018 年から本学環境土
木工学科の教授として採用していただきました。

専門は地盤工学で、粘土の変形特性と構成式に関する研
究、粘土の微視的構造と温度効果に関する研究、粘土地盤
の圧密変形と地盤改良に関する研究、土質試験法に関する
研究、地盤災害に関する研究、廃棄物処分場の有効利用に
関する研究など、地盤工学における基礎的な研究を行うと
ともに、その成果を利用した応用・実務的な研究も行っ
てきました。今後は、これまでの研究成果を生かして、維持
管理を含めて粘土地盤の長期的挙動予測に関する研究、地
盤災害の防止・軽減技術に関する研究および廃棄物処分場
跡地の早期有効利用に関する研究を進めて行きたいと考
えています。特に、地盤災害の防止・軽減に関する研究と
しては、降雨時の斜面の危険度を地形・地質ごとに定量的
かつ精度良く評価する方法を確立するとともに、この成果を
生かして警戒・避難・規制解除のための雨量指標を地域特
性を考慮して設定する方法を確立し、それを用地防災シス
テムの構築に関する研究を行いたいと考えています。

教育に関しては、これまで広島大学と呉高専で合わせて
35 年間高等教育に携わってきました。この間、高校 1 年
生から大学院生までの幅広い年齢層の学生や留学生などを
含めて多様な学生を教育してきました。また、呉高専では
教務主事、専攻科長、および教育センター長をほぼ 6 年間
務め、持続的発展教育 (ESD) の導入、全学的なキャリ
ア教育の整備、学生の視野を広げるための分野横断的科目
(技術者入門など) や、アクティブラーニングにつながる
課題解決型科目 (インキュベーションワークなど) などの
導入を行い、全学的な教育改善に係ってきました。今後は
これらの経験を生かして学生に今後の科学技術の進展に柔
軟に対処できる基礎的能力と、自ら考え、工夫して問題を
解決できる能力を身に付けさせ、社会基盤施設の調査・設
計・施工・保全・管理など、幅広い分野で社会に奉仕する
技術者を育成したいと考えています。また、卒業研究にお
いては、地域の企業や行政と密着した実質的内容を取り入
れて地域密着型の実践的技術者の育成を行いたいと思いま

すので、広土会の皆様のご支援を賜りますよう、よろしく
お願い申し上げます。



新任のご挨拶

環境土木工学科 教授

塚本 俊明

2018 年 4 月に環境土木工科学科学生支援アドバイザーと
して着任いたしました。塚本俊明と申します。よろしくお
願い申し上げます。

私は、広島大学建築学科を卒業後、(株)都市環境研
究所において約 30 年間、都市計画の仕事に従事して参りま
した。都市計画に携わるきっかけは、在学中に広島大学が
私の地元である西条への移転を決定し、賀茂学園都市建設
計画を現地で策定するためアルバイトとして手伝ったこと
です。その後、広島大学の移転した東広島市の都市づくり
や、広島県・広島市を中心に中国地方の県・市町の計画の
お手伝いをさせていただくとともに、広島大学、宮崎大学、
九州大学等の移転に関わる調査や計画策定業務に携わら
せていただきました。都市計画の業務に当たっては、広島工
業大学の先生方、卒業生の皆様に大変にお世話になりました。

2005 年からは、それまでの経験を活かして広島大学に
おいて地域連携の業務に携わってきました。大学と地域を
結ぶ窓口として、学生によるキャンパスツアーガイドや大
学教職員・学生が地域社会からの提案課題に取り組む地域
連携プロジェクト、自治体との連携事業等の運営に関わ
ってきました。また、建築学会小委員会の活動に参加させて
いただき、国内外の大学と地域の連携について勉強させて
いただきました。

広島大学の定年退職を機に、2018 年度から縁あって広
島工業大学で学生支援アドバイザーとして活動させていた
だいております。これまで、国立大学を中心に経験してき
ましたので、広島工業大学の手厚い学生支援体制には驚く
とともに感心しております (本当は、このようなケアが必要
ない学生が入ってくればいいのですが...)。これ
までの経験とは全く異なる分野の仕事で戸惑うことはあり
ますが、学生達の様子を見守りながら、指導される先生方
と情報を共有し、効果的な指導が行われるよう努めていき
たいと考えています。

また、都市計画の分野は、広島工業大学の卒業生が直接
関わることは少ないと思いますが、社会資本として後生に
残る建造物・構造物を造る技術者として、身につけておく
べき重要な素養だと考えています。これまで長年にわたり
関わってきた実務経験を活かして、都市計画・まちづくり
の重要性やおもしろさについて、学生達に伝えていく機会
も持ちたいと考えています。

今後とも、よろしくお願い申し上げます。

事 務 局 だ よ り

広土会の活動は会員の会費納入で運営されています。広土会 50 周年に参加された方には第 23 号をお送りして
いますが、今年度から会費未納あるいは期限切れの会員には広土会新聞をお送りしていません。広土会 50 周年に参
加された方で会費未納あるいは期限切れの方はこの点を御理解いただき、会費の納入をよろしくお願いいたしま
す。

また、16 期生の方は会費 5,000 円納入で終身に以降できますので納入の方よろしく願いいたします。

広土会 50 周年記念事業につきましては下記のパスワードで広土会ホームページより閲覧できます。

今年度は、11 期生 - 40 周年、21 期生 - 30 周年、31 期生 - 20 周年、41 期生 - 10 周年を迎えます。記念祝賀
会等を行われる場合には事務局にご連絡をいただければご協力いたします。

また、広土会新聞は会員の情報誌です。皆様からの情報、ご意見、ご感想をお待ちしております。FAX、またはメー
ルでご連絡下さい。

広土会 HP : <http://www.kodokai1968.jp/> パスワード : kodokai2014

FAX (082) 921-8976 E-mail : kodokai@cc.it-hiroshima.ac.jp

皆様からの信頼を財産に



八光建設工業株式会社

HAKKO

本社 〒732-0052 広島市東区光町 2-4-23

TEL (082) 262-8166 (代) FAX (082) 263-8189

<https://hakkokensetu.co.jp/>

KATO
Construction Co., Ltd.



株式会社 加藤組

〒728-0013 広島県三次市十日市東一丁目 8-13

TEL (0824) 63-5117 FAX (0824) 63-5100

<http://www.kato-gr.com>